

インフルエンザ・マイコプラズマ・RSウイルスなどの  
各種感染症予防に努めましょう!



# 昨年に引き続き本年も マイコプラズマ肺炎や RSウイルスが大流行しています!

昨年に引き続き、本年もマイコプラズマ肺炎やRSウイルス感染症などの子どもがかかりやすく、重症化しやすい「呼吸器感染症」と呼ばれる症例が大流行しています。すでにマイコプラズマ肺炎やRSウイルス感染の感染報告数も過去最悪ペースとなっており、今後もさらに増える兆しがあります。また、どちらの感染症も最活動期が冬の時期(12月～1月)となり、毎年のインフルエンザ流行時期と併せてこれから季節は特に注意が必要となります。

## マイコプラズマ肺炎とは…

マイコプラズマは細菌やウイルスとは異なり微生物で、細菌よりも小さく、ウイルスよりも大きく、細菌にもウイルスにもない性質を持っています。そのため、細菌などに有効となるペニシリンやセフェム系などを代表とする抗生素質は効きません。また、気管やノドなどの気道に感染するという特徴があります。

### 感染経路

痰や唾液、咳などの飛沫感染(2メートル前後の距離)が主で、気道に感染することが多い。

### 潜伏期間

感染してから発症するまでの潜伏期間は1～4週間程度。

### 感染期間

約1週間程度。



## RSウイルス感染とは…

RSウイルスは感染力が非常に強いウイルスで、麻疹ウイルスなどと同類のウイルスに分類されます。また、RSウイルスへの特効薬は現在のところ開発されておらず、感染によって現れる諸症状を和らげるクスリの服用や、非常に高価なパリビズマブ(シナジス)を使った予防注射をする以外にありません。RSウイルスは主にノドや気管支などの呼吸器に感染します。

### 感染経路

飛沫感染、手指を介した接触感染。最初に鼻に感染することが多い。

### 潜伏期間

感染してから発症するまでの潜伏期間は2～8日。

### 感染期間

ウイルス排泄期間は7～21日と長く、感染が広がりやすいのが特徴。

## 症状について…

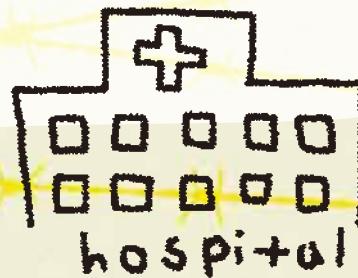
マイコプラズマやRSウイルスとともに、感染した場合はまず風邪と同じような症状が発症します。大人も感染しますが、重い症状が出ることは少なく、風邪程度でおさまる場合がほとんどですが、0歳～8歳くらいまでの幼児や小児の場合は重症化することも多く、肺炎や肝炎、気管支炎、脳炎、じんましんなどといった合併症を併発してしまう恐れもありますので、注意が必要です。

### 主な症例

ノドの痛み、鼻水、鼻づまり、37度～39度の発熱、むせるような咳、呼吸困難など

## 予防について…

マイコプラズマやRSウイルスとともに、飛沫感染や接触感染が感染ルートであるため、基本的な内容になりますが、『うがい・手洗い・睡眠・栄養補給』を怠らないことや、なるべく人混みなどを避けることも大切です。また、万が一、感染が疑われる場合は症状の悪化を最低限度に抑えるために早めの受診を心がけましょう。



## インフルエンザ 予防接種について…

マイコプラズマ肺炎やRSウイルスも流行時期を向かえますが、インフルエンザウイルスも流行のピーク期を向かえます。インフルエンザの場合は、予防接種をおこなうことでかなり症状の軽減が期待できますので、建連国保の『予防接種補助金制度(組合員・ご家族1名につき4,000円までを補助)』を活用して予防に努めましょう。

